

平成14年度舢倉島総合診療実施報告書

平成14年8月12日
舢倉診療所所長 武川治水

平成14年度の舢倉島総合診療は、石川県・輪島市の主催のもと8月3日(土)、4日(日)の2日間にわたり実施され、無事終了いたしました。関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

本年度の実施状況につきまして以下に御報告致します。

1. 日程

平成14年 8月3日(土) 13時から18時

8月4日(日) 9時から12時

なお、8月3日8時30分から輪島港舢倉島定期船乗り場前にて
総合診療20回記念出発式が行われた。

2. 場所

輪島市海士町所属舢倉島高見1番地

舢倉島開発総合センター1階

玄関ロビー ; 受付 待合室

診察室 ; 外科

保育室1 ; 聴力検査

保育室2 ; 内科

検査室 ; 眼科 レントゲン撮影

コンピュータ室 ; 耳鼻咽喉科

3. 診療科目

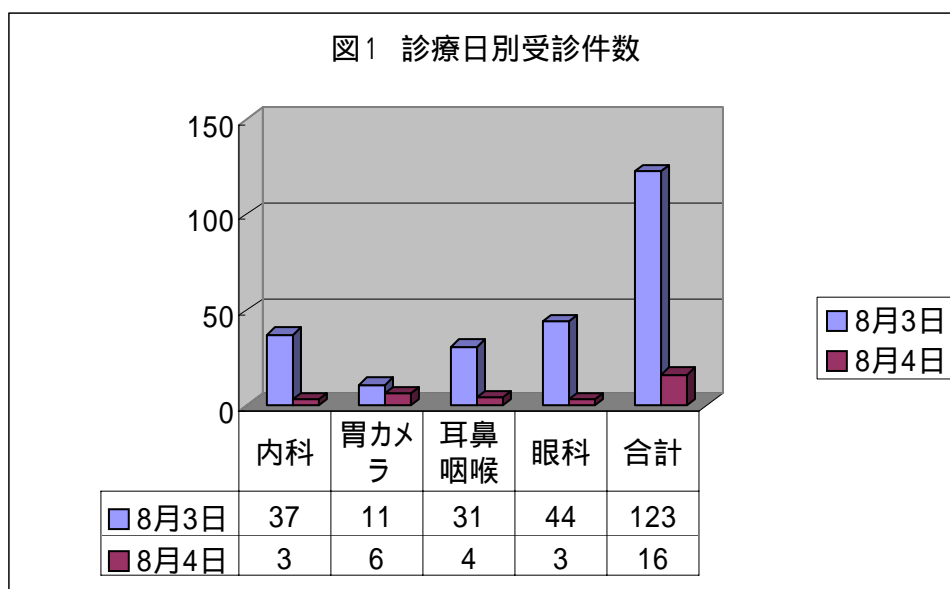
内科、外科〔上部消化管内視鏡(胃カメラ)〕、耳鼻咽喉科、眼科

4. 診療従事者

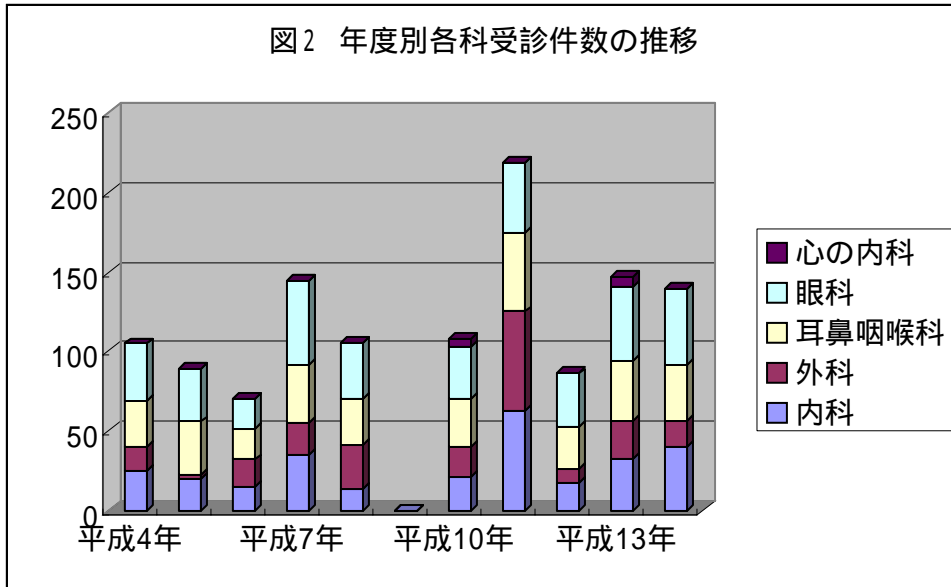
耳鼻咽喉科	小森 貴	医師 (小森耳鼻咽喉科医院)
	石崎 奈津子	看護師 (県立中央病院)

眼科	山村 敏明	医師 (やまむら眼科医院)	
	毎田 純子	保健師 (輪島市長寿保健課)	
外科	高畠 一郎	医師 (金沢有松病院)	
	細田 ひとみ	看護師 (県立中央病院)	
内科	黒瀬 亮太	医師 (市立輪島病院)	
	河内 佐恵子	看護師 (県立中央病院)	
受付	奥村 二郎	県健康福祉部長	
	黒氏 純子	県健康福祉部医療対策課主任技師	
	山本 潤	同	主任主事
	村本 正道	同	主事
雑務	武川 治水	(舳倉診療所)	

5. 受診状況



ほとんどの受診者は図の通り8月3日に集中した。これは8月3日が沖休み(漁の休業日)となったことが明らかに影響している。8月4日は好天に恵まれ漁が行われたこともあり、受診者数は少数にとどまった。胃カメラに関しては、事前に予約を受けたことや、8月3日は午後からの診療であり検査の為の絶食時間が長くなることから敬遠される向きもあり、結果として他科ほどの格差が生じなかったものと思われる。なお輪島 舳倉島間1日1往復の定期船は舳倉島着10時30分であり、診療機器設置など準備のため、診療開始は例年午後からとしている。



8月3日が沖休みであったことから順調な出足となり、結果として昨年とほぼ同数の受診件数となった。ちなみに例年8月第1週に開催される総合診療にあわせて、8月の沖休みが設定されるようになったのは平成13年からである。それ以前は当日の天候や行事によって受診件数が大きく左右されており、それはこの図からも伺えるであろう。なお平成9年は荒天のため定期船が欠航し、中止となっている。また受診件数が最も多い平成11年であるが、これは総合診療の2日間とも(眼科のみ別日程)が天候の関係で沖休みとなった年であった。

本島においては島民の大多数が漁を生業としており、仕事と休みが皆ほぼ同じというのが現状である。このことは日常の診療でもみられ、漁がある日はほとんど受診者がなく、逆に荒天で漁が休みとなった日は多くの受診者が来られるという具合である。

上図1, 2からより、総合診療の日程に沖休みが含まれている事が、受診件数に好影響をもたらしているのは明らかと言えよう。

6. 各科診療内容

内科

昨年夏期の診療所長であり、現輪島病院内科勤務である黒瀬医師を迎え、内科はほぼ例年どおり、血圧測定、血糖測定、尿定性検査、心電図検査を施行した。医師1人勤務ではなかなかこれらの検査を全員に施行するのは難しい。今年もこれらの検査および診察により新たな異常所見がみられ、検査や治療のご指示を頂いた。

黒瀬医師には当診療所や輪島病院でこれまで診療を受けた方も多く、今回内科が例年より受診者数が多かったのはそこにも理由があると思われる。診療両日とも沖休みであった平成11年を除けば、過去10年で最多の受診件数であった。私見ではあるが、例年冬期赴任予定である初期研修直後の医師が申し送りなども兼ね内科診療に来られているが、そろそろ今回の黒瀬医師のように、より経験を積んだ内科医師の登場があってもいいのではないだろうか。

外科

本島の胃カメラ健診は、総合診療当初より継続して施行されてきた高畠医師のご努力により、島民の間にすっかり定着している。この健診で早期胃がんを発見され、手術により社会復帰を果たした方もおられ、島民の期待は極めて大きい。ご都合により一昨年・昨年とお越し頂けなかったが、今回は久々の来島に17名の受診者があり、内3名に胃粘膜生検を行った。

なお今回高畠医師の勤務されている金沢有松病院から内視鏡、光源など主要な機器をお貸しいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

耳鼻咽喉科

20年を数える総合診療を、まさに当初から牽引されてきた診療団代表の小森医師が、今年も耳鼻咽喉科診療にお越し下さった。海女の島である本島は、特に潜水シーズンには耳、鼻、のどに関する訴えが非常に多く、専門的な耳鼻咽喉科診療の需要が極めて高いことは特に夏のこの時期痛感するところである。

今年も喉頭ファイバー、副鼻腔 X 線検査などを用いた専門診療を行っていただき、治療のご指示を頂いた。診療中、島の方々と楽しげに談笑される姿が印象的であった。島の方々の小森医師への厚い信頼と親しみを感じた。

眼科

現在の舳倉診療所を、その初代である故疋島一徳医師に続いて支えてこられた山村医師は、総合診療にても眼科診療を継続して支えてこられた。島民の間でも年1度の検査を心待ちにしている方々は多く、その信望は厚い。全科中最多の47名が訪れた。

高齢化も徐々に進み、高血圧・糖尿病といった生活習慣病を持つ方も多い本島において、白内障、糖尿病性網膜症など慢性疾患の経過観察としても重要な意味を持ち、果たす役割はまさに大きいと言える。

7.まとめ

前述の通り、通常は第2・第4土曜日である沖休みを、昨年平成13年より8月は第1土曜日即ち総合診療初日に充てていただけることとなった。これは20年にわたり連続と継続され、良好な関係を築いてこられた小森医師はじめ診療団の努力によるのと言うまでもないが、舩倉島の方々が総合診療を重要な行事として捉えていることの、大きなあらわれとも言えよう。事実仕事の関係でこの時期島外にいる住民の中にも、総合診療にあわせて日帰りで受診される方々がいらっしゃる。このことから、総合診療への島民の期待を伺い知ることができる。

この総合診療は疾病の予防、早期発見といったいわゆる健診的な側面と、診療所医師では難しい、専門医診療の側面との2つを持ち合わせているといえる。専門医志向の高まりや徐々に進む高齢化のなか、地理的条件などから専門医の受診が容易でない島民にとっても、医師1人勤務で診療範囲におのずから限界がある舩倉診療所にとっても、これからもますます総合診療への期待とその果たす役割は大きくなっていくと思われる。

8.謝辞

去る8月3日・4日に行われました本年度の舩倉島総合診療は石川県・輪島市主催のもと、のべ139名の方々にお越しいただき、おかげをもちまして盛況のなかに無事終了いたしました。

舩倉島区長吉浦甚雄様、開発センター長道下有知様、漁協所長池端勝正様はじめ漁協の皆様、民宿つかさ様、舩倉航路様、伊藤医院伊藤英章様、また県庁健康福祉部、県立中央病院、輪島市長寿保健課、輪島病院、小森耳鼻咽喉科医院、やまむら眼科医院、金沢有松病院など関係機関の皆様、お越し下さった医師・看護師・保健師・県庁の皆様、そして受診してくださいました皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。